

事務事業名	コード	33100 消防車両整備事業	予算科目	会計	会 計	款	項	目	所管課	消防本部	担当班	警防課
基本施策	30	消防力の強化	根拠法令	消防組織法、消防力の整備指針	一般	9	1	1	事業種別	<input checked="" type="checkbox"/> 主な事業	<input checked="" type="checkbox"/> 国土強靱化地域計画	<input checked="" type="checkbox"/> 新市建設計画
施策の展開	58	常備消防体制の充実	戦略事業	256 消防車両の整備						<input checked="" type="checkbox"/> 定住自立圏構想	<input type="checkbox"/> 主要事業	
施策の展開												

(1) 事務事業の概要

① 事務事業の期間	② 事務事業の内容 ※何をどのようにする事務事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 <input type="checkbox"/> 平成 年度～ <input checked="" type="checkbox"/> 開始年度不詳 <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 平成 年度～ 平成 年度まで	・本市における消防車両更新基準に基づき緊急出動に支障をきたすことのないよう更新整備を行います。 ・消防ポンプ自動車、水槽付消防ポンプ自動車、化学消防車、救助工作車は「消防車両の安全基準について」に基づき15年。 ・はしご自動車は「消防車両の安全基準について」に基づき17年。ただし、安全性の確保のため更新までの間に2～3回のオーバーホールを実施。 ・高規格救急車は他の緊急車両と比較すると使用頻度が高く老朽化が早い12年を基準としますが安全性を考慮し走行距離15万kmも更新基準に加える。 ・指揮車、広報車、特殊車等、緊急車両以外の車両は更新基準15年。
③ 事務事業開始の経緯・事務事業の現状	④ 事務事業に関する課題・環境の変化
・複雑・多様化する災害に対応するため、本市に必要な車両基準数を満たすよう、また現状の消防力を維持し消防の住民サービスの充実を目的として消防本部設立当初より継続して実施している。	・消防車両等の高機能化により購入価格が上昇傾向にある。 ・更新基準年数に近いまたは、経過している車両については故障、修理件数が増加傾向にある。
⑤ 事務事業に対する住民からの意見等	
「安全で安心して生活のできるまちづくりをお願いします」とのご意見があった。	

(2) コスト・特定財源の状況

① 事業費の詳細(29年度の決算) 単位:千円							
1. 需用費	0	単位	26年度(決算)	27年度(決算)	28年度(決算)	29年度(決算)	30年度(予算)
2. 役務費	0	1. 需用費	千円	0	0	0	0
3. 備品購入費	0	2. 役務費	千円	9	673	84	46
4. 公課費	0	3. 備品購入費	千円	34,192	63,009	269,118	0
		4. 公課費	千円	18	100	231	0
			千円				43
② 特定財源の内訳(29年度の決算) 単位:千円		事業費計 (A)					
1. 国庫支出金	0	千円	34,219	63,782	269,433	0	42,389
2. 都道府県支出金	0	1. 国庫支出金	千円				
3. 地方債	0	2. 都道府県支出金	千円				
4. その他	0	3. 地方債	千円		58,900	258,500	0
		4. その他	千円				38,800
		5. 一般財源	千円	34,219	4,882	10,933	0
			千円				3,589

前年度増減理由	車両更新が無かった為
---------	------------

従事職員数 常時 2人 最大 人 × 日 = 延べ 0人

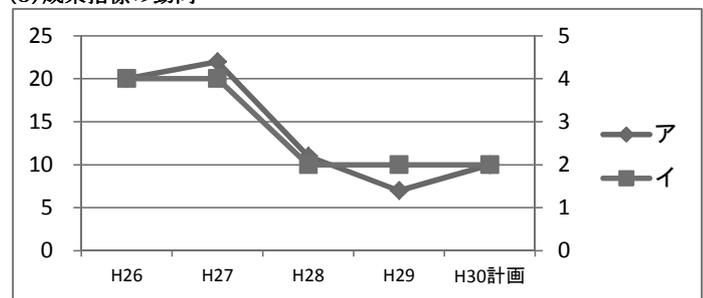
(3) 事務事業の手段・目的と対応する指標

手段	① 主な活動	⇒	③ 活動指標名	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)
	29年度実績(29年度に行った主な活動)		ア 消防車両の更新	台	1	3	3	0	2
	特になし		イ 排ガス浄化装置取り付け	台	0	0	0	0	0
目的	② 対象・意図(対象がどのような状態になるのか)	⇒	④ 成果指標名	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(計画)
	対象 消防車両等		ア 車両故障件数	件	20	22	11	7	10
	更新年月を迎えた消防車両等を計画的に更新することにより、住民への安全で安心な暮らしの消防住民サービスが提供できる。		イ ポンプの故障件数	件	4	4	2	2	2

(4) 事務事業優先度評価の結果

① 成果優先度評価結果			② コスト削減優先度評価結果			
施策貢献度	大きい	①	評価結果	下位 1/3	中位 1/3	上位 1/3
	普通				(1)	
	小さい					

(5) 成果指標の動向



(6) 事務事業に関する評価

① 進捗状況	<input type="checkbox"/> 完了 <input checked="" type="checkbox"/> 順調 <input type="checkbox"/> 概ね順調 <input type="checkbox"/> 停滞 <input type="checkbox"/> 実施困難
② 成果の状況	成果指標ア 成果指標イ 成果指標のタイプ 数値減=成果向上 <input type="checkbox"/> 向上 <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下 数値減=成果向上 <input type="checkbox"/> 向上 <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下
③ 今年度取組事項(30年度に取り組む主な事項について記載)	時期 30年内 内容 消防ポンプ自動車(CD-I型)及び調査車の更新配備 今後の方向性 30年度以降 車両状況と整備計画を考慮しながら更新を進める。